

## スイスの学校生活

太田 廣子

スイスのジュネーブで1975年暮から3年余りを家族と共に過しました。現在、日本では教育の問題は最も重要な社会問題の一つになっていますが、皆様が日本の学校教育をお考えになるご参考になればと思ひまして、2人の子供達の通ったスイスの公立幼稚園、小、中学校を中心にスイスの学校生活をご紹介します。

スイスではすべての公立小学校に2年間の幼稚園が付設されていますが、ほとんどすべての子供達がこの幼稚園に通いますから、4歳から学校生活が始まるといえます。その後高等学校が4年間であることを除いて大学まで同じ年限ですが、日本の学校とは種々にわたって違っています。幼稚園から字の読み書き言葉の勉強が始められ、この段階から落第と飛び級があり、義務教育は中学卒業ではなく、15歳までとなっています。ジュネーブの小学校では国語（フランス語）教育に非常に重点が置かれ、国語の授業は講読、文法、書き取り、詩、単語の発音と綴り字の関係等に細分されています。低学年での算数は絵を使って集合の考え方を教えることに徹していますし、理科、社会はなく、環境ということでは自然の移り変わりや人々の暮らしに目を向けさせています。3年生までは遊びの要素が多分に取り入れられ、ゆったりとしていますか。4年生になると系統的な学習が始まります。中学は本人と家族の希望と能力に従って文系進学、理系進学、高校で職業コースへ、義務教

育終了後就職の4コースに分けられ、小学校のんびり教育とは全く異り、連日のように試験が行なわれ、教科内容も進学コースでは、日本よりも高度になっています。一方、中学校から職業指導も盛んで、時計作り、郵便、鉄道など各種の職場見学が希望者のために行われます。高校段階では各種の職業専門学校がありますが、普通高校では日本の大学の一般教養になるような勉強をしています。高校卒業時にはマチュリテと呼ばれる大学入学資格試験がありますが、日本のような大学入学試験はありません。大学を卒業しても就職が非常にむつかしくて、大学ではきびしい試験がありますから、大学へは本当に勉強したい人だけが進学しています。小さい子供から大学生まで勉強は日本のように他人との競争のためでなく、自分自身との闘いという意識で取り組んでいるように見えます。学校は日曜日の他に木曜日が休みですし、2ヶ月の夏休み、秋休み、スキー休み(各1週間)、クリスマス休み(2週間)、復活祭の休み(10日間)と休みが多く、日頃は毎日簡単な宿題が課されますが、休みの日には全く宿題は出されませんが、ですから子供達は恵まれた環境の中で実にのびのびと遊び、スポーツを楽しみ、自分の好きなことに集中し、又友達や家族とスキーに行ったり、旅行をしたりしています。スイスの小学生は屈託がなく、元気いっぱいですし、大きくなった子供達は意欲的に物事に取り組んでいます。

(10回生)